

製品名: Cbl (リン酸化 Tyr674) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04391**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	120kDa

抗原情報

遺伝子名	CBL
別名	CBL; CBL2; RNF55; E3 ubiquitin-protein ligase CBL; Casitas B-lineage lymphoma proto-oncogene; Proto-oncogene c-Cbl; RING finger protein 55; Signal transduction protein CBL
遺伝子 ID	867.0
SwissProt ID	P22681
免疫原	抗血清は、ヒト CBL 由来の Tyr674 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 640-689

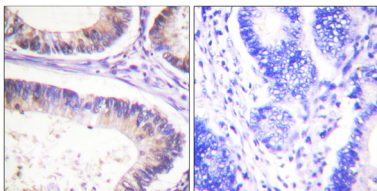
背景

Cbl プロトオンコ遺伝子(CBL) ホモサピエンス この遺伝子は、RING フィンガー E3 ユビキチンリガーゼをコードするプロトオンコ遺伝子です。コードされているタンパク質は、プロテアソームによる分解のために基質を標的とするために必要な酵素の 1 つです。このタンパク質は、ユビキチン結合酵素(E2)から特定の基質へのユビキチンの転移を仲介します。このタンパク質は、N 末端ホスホチロシン結合ドメインも含み、多数のチロシンリン酸化基質と相互作用し、プロテアソームによる分解の標的とすることができます。そのため、多くのシグナル伝達経路の負の調節因子として機能します。この遺伝子は、急性骨髄性白血病を含む多くの癌で変異または転座していることが判明しており、5' UTR の CGG リピートの拡大はヤコブセン症候群に関連しています。この遺伝子の変異は、ヌーナン症候群様疾患の原因でもあります。 [RefSeq 提供、2016 年 7 月],疾患: RTK のダウンレギュレーション能力を阻害する欠失または変異によって、発がん性タンパク質に変換される可能性があります。 ,ドメイン: N 末端は、リン酸化チロシン結合 (PTB) ドメイン、短いリンカー領域、および RING 型ジンクフィンガーで構成されています。 PTB ドメインは TKB (チロシンキナーゼ結合) ドメインとも呼ばれ、4 ヘリックスバンドル (4H) 、カルシウム結合 EF ハンド、および分岐 SH2 ドメインの 3 つの異なるサブドメインで構成されています。 ,ドメイン: RING 型ジンクフィンガードメインは、E2 ユビキチン結合酵素への結合を媒介します。 ,機能: 造血細胞におけるシグナル伝達に関与します。 細胞表面の受容体から始まる多くのシグナル伝達経路の負の調節因子として機能するアダプタータンパク質です。 E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼとして作用し、特定の E2 ユビキチン結合酵素からユビキチンを受け取り、基質に転移させてプロテアソームによる分解を促進します。 PDGFA、EGF、CSF1 などの活性化受容体チロシンキナーゼを認識し、シグナル伝達を終結させます。 ,その他: このタンパク質は、機能的なカルシウム結合部位を 1 つ有します。 ,経路: タンパク質修飾; タンパク質ユビキチン化。 ,PTM: EGFR、SYK、FYN、ZAP70 によってチロシン残基がリン酸化されます (類似性による)。 INSR によってチロシン残基がリン酸化される。 ,類似性: CBL N 末端ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: RING 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。 ,類似性: SH2 ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: UBA ドメインを 1 つ含む。 ,類似性: EF ハンド様ドメインを 2 つ含む。 ,サブユニット: SH3 ドメインを介して NCK と結合する。 リン酸化 C 末端は、2 番目の SH3 ドメインを介して CD2AP と相互作用する。 UBE2L3 に結合し、アダプター SLA、SLA2、および SH2B2 のリン酸化 C 末端と相互作用する。 高度に保存された Cbl-N 領域を介して EGFR、SYK、ZAP70 と相互作用する。 また、SORBS1 および INPPL1/SHIP2 と相互作用する。 リン酸化 LAT2 と相互作用する。 CBLB と相互作用する可能性がある。 ,

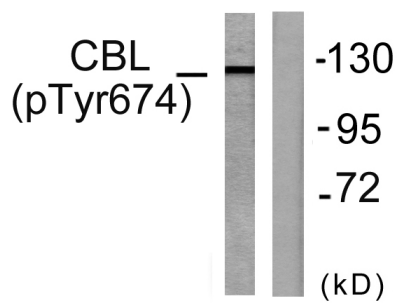
研究分野

ErbB_HER;ユビキチン媒介タンパク質分解;エンドサイトーシス;Jak_STAT;T 細胞受容体;インスリン受容体;がんにおける経路;慢性骨髄性白血病;

画像データ



CBL (リン酸化 Tyr674) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Na₂VO₃ 0.3nM 40μl 処理した HepG2 細胞ライセートの CBL (リン酸化 Tyr674) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。